

1.
去年のスケジュール帳を開くと、息子の休んだ日に
×マークがあった。

2/14(木) 首の痛 2/22(金) 足のつけ根
2/25(月) 胸が痛い 2/26(火). 27(水) 気持ち悪い
として 2/28(木) には 6(汗) マークが付き、3/4(火)
まで続いた。5年生。これが初めての「理由の
わからない登校拒否」でした。

これまでも 行々渋りは時々あった。よく話を
聞いてみれば友達とのトラブルが隠れている。仕事もあり
それゆえ「時間」や「期間」を削られたい。(それでも過剰に
早退・欠勤を繰り返した)。そこで学校に相談に出向くと
先生は「本人達を話し合わせてみろよ。明日は連れて来て
下さい」と仰って下さり、なんとか息子を連れ出せ、
解決して帰ってくる。—— 私なりに、先生なりに、
子どもと向き合い、良かれと思っただけ対応してきました。
「人間様を取れなきゃ、転ばなきゃ」とわかってもらったのに、
私は転んだあと、いつも手を引いて立たせていたんですよ。
結局、石ころが見えただけで歩けなくなる子どもを
育ててしまいました。

でもそれに気づくのは大分あと。実は離婚増進していた
ので(きっかけはよくわかってたと思う)。そこで欠けた部分を
埋めようと、今まで以上のスキンシップ、心を汲みとり「先読みの
対応」、仕事の時間も調整「お疲れ」が言えずに時間的に
在宅(=過干渉?!)、そして生活の自立面も増やそうと
「命令・指示・提案」... 今思えば逆効果の組み合わせ

であらね。6年生の4月、息子は完全不登校に入り
ました。今回と1年前の今頃の事です。

学校は協力的で担任の先生は度々家庭訪問
をしてくれました。

市の教育相談にも通いました。カウンセラーの方は
親身になって息子の心に何が隠れているのか見い出そうと
してくれました。焦らす「卒業式」の出席を目指して…。

とても感謝しているが、その作業がムダだったとは
思いません。私も「待つ事」「見守る事」に抵抗は
なかったんです。でも、幼児帰りもし、友達を拒否し、
知人の陰に怯える彼をどのように導けば卒業式
に出られるのか。見えては来ませんでした。

夏休みの終わりに、たまたま再登校支援機関を
利用してお子さんの不登校を克服した方の話を
聞きました。換物の掲示板でのやりとりで、どの方向
対応をしたのか、その断片を教えて下さいましたが、
正直この方法で子どもが学校に行くのか、半信半疑
でした。子育てを変える葛藤もありました。でも、どうせ
子どもを強くできないなら、それなら手放し始めて
みよう。そして卒業までの残り時間を考えたら、
プロに指導を受ける必要がめんどり決断し、
縁あって水野先生に御指導頂くことになった
のです。

会話ノートを見ると先生は「幼さ」「子上位」に

問題を感じたので、更に具体的な対応を教えて
下すべし。赤ちゃん言葉に対し「……。(悲しみに
見つめる)。敬語をやめろ。やたらに謝らない。

…しばらくすると赤ちゃん言葉はやめました。

その後もアクティビスニングやアイテムセジメント学
びつつ、会話や対応を変えました。本当に楽な事では
ありませんでしたが、続ける事で親子関係が
良好になって息子が穏やかになってきたので。

早い内に変化が見られたのは、独学でなく「私」と
「息子」が「このセッション」の場合は一たび、場面ごとの
指導を、ノートや電話でこまめに受けられたからだ
と、思います。

そして私が予想していたより、息子に早い11月の
終わりに、水野先生をはじめとする多くの人々の
力を借りて、息子は再び学校へ行けはじめました。
7か月の不登校が終わったので。息子のお昼を
心配せず出勤し、息子の待たない家に帰り、息子の
「遊びに行ってくる」を背中から聞きながら幸せを
感じ日々が戻ってきました。それから彼は高熱を
出した1日以外は1度も休まず卒業式を迎えた
ので。

運動会も出られませんでした。修学旅行も行け
ませんでした。私が早く家族療法を学んでいれば
どちらもあきらめる事なく参加できたのかも知れ
ませんが、堂々と顔を上げて卒業式に臨む息子の姿を、

6.

晴れ晴れとした思いで見られた事が、私にはもう
十分嬉しかったのです。

息子は今のところ、毎日中学に通っています。「ああ
大変だ」「もうイヤだ」とグチリながらも、親に
はとくと頼らず 中学校生活を回しています。

これから本格的にはじまる部活の事なども考えると
親は用心ビヤビヤですが、ビヤビヤすれば可子程、
必要なのは冷静な対応ですわね。今で子のは
何かあっても立ち上がれる。心の筋力をつけて
おく事。

— こう思える私に 導いて下さった水野先生
本当に感謝しています。あの1年前とはまるで
違う4月です。本当に本当にありがとうございました。

2009.4.22